

ASHBi First Contact Program

Researchers' Co-Learning Community @KRP #9



なぜ生命科学に倫理が必要か？



広島大学 大学院人間社会科学研究科

澤井 努 准教授 (WPI-ASHBi連携研究者)

<参加者へのメッセージ>

私はこれまで京都大学iPS細胞研究所や京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点で生命倫理の研究をしてきました。おそらく参加者の中には「生命科学に倫理なんて必要なの？」と考える方もおられると思います。私からはこれまで取り組んできたヒト脳オルガノイド研究の倫理的課題を糸口に、「なぜ生命科学に倫理が必要か？」という問いに答えていきたいと思っています。

2024.02.29 (Thu) **16:00-17:30** (@KRP)

本セミナーは、京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi)が実施するFirst Contact Programの一環として、京都市リサーチパーク(株)と共に開催する Researchers' Co-Learning Community @KRP (ReCoCo@KRP) として実施いたします。

First Contact Programについてのお問合せ

京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi)

Research Acceleration Unit

TEL: 075-753-9880

E-mail: ashbi-acceleration@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



◆澤井先生へのショートインタビュー

Q：先生はどんな研究をされていますか？

A：生命科学の先端分野で生じる倫理的課題について、時に科学者とも協働しながら研究しています。

Q：先生はなぜそのような研究をしようと思われたのですか？

A：2012年9月、京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥先生がノーベル賞を受賞されることが発表されました。その頃、イギリスに留学していたのですが、留学先の指導教員からiPS細胞研究に伴う倫理的課題に取り組んでみないかと提案されたのが、現在の研究をするに至った直接的な契機です。

Q：その研究によって（今までにない）どんな面白いことができる・分かるようになりますか？

A：生命科学が進展すれば、様々な期待とともに懸念が生じます。そうした期待と懸念を併せ持つ生命科学をどの程度進めるべきかについて、通常、あまり真面目に考えることはないと思います。このような研究をしていると、少なくとも自分自身で考え、自分なりの答えを出すための判断材料を得ることができます。

Q：研究のご紹介を通じて、参加者の皆さんとどのような議論をしたいと思いますか？

A：私の分野では多様な利害関係者と議論することが大事とされています。今回の研究紹介を通じて、私に取り組んできた課題について皆さんと一緒に議論ができればと思っています。

【略歴】

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。2014-2019年、京都大学iPS細胞研究所上廣倫理研究部門特定研究員、特定助教を経て、2019年7月より京都大学ヒト生物学高等研究拠点(WPI-ASHBi)特定助教、2022年4月より現職。哲学・倫理学と科学の接点で国際的かつ学際的な生命倫理学研究を進めている。

◆京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点（ASHBi）

京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点（ASHBi）は、世界から第一線の研究者が集まる「目に見える研究拠点」を形成し、日本の科学技術水準を維持・向上させていくことを目的とした、文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム（以下、WPI）の拠点として2018年に設立されました。ASHBiでは、拠点長の斎藤通紀を中心に、国内外から優れた17名の主任研究者（PI）を集め、我々ヒトに付与された特性の獲得機構とその破綻による病態発症の原理を究明する目的のもと、新しいヒト生物学の創成を目指した研究を行っています。

また、ASHBiでは、最先端の実験機器の整備やオープンで国際的な研究環境の構築に加え、若手や海外研究者の研究力強化へ繋げる研究支援を目的とし、リサーチアクセレーションユニットを設置しています。本ユニットでは研究者の個別支援に加え、ファーストコンタクトプログラムを始めとした様々な研究者育成プログラムの企画・運営を行っています。



◆ファーストコンタクトプログラム

ASHBiが実施する「ファーストコンタクトプログラム」は、研究の最前線で活躍する准教授～ポストドククラスの若手研究者がアカデミアの研究を紹介し、企業の研究開発の最前線で活躍する中堅・若手研究者が社会実装や事業視点からのフィードバックを提供、その活発な双方向の議論の中から新しい気付きや刺激を得る、ということを目指した知識交流セミナープログラムです。